下呂農林事務所の普及活動状況　令和６年 12 月 31 日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■農福連携　第２回地域連携会議を開催し、次年度の活動内容等を協議

【地域連携会議の様子】

12月23日、下呂福祉会館において、市内の福祉事業者、ぎふ農福連携推進センター、ＪＡひだ益田営農センター・竹原支店、下呂市福祉部・農林部、下呂特別支援学校の担当者を参集し、第２回農福連携下呂地域連携会議を開催しました。

初めに、農業普及課から10月に改訂された「農福連携等推進ビジョン」の要点について説明し、ぎふ農福連携推進センターからは県の助成制度と農業参入の基礎知識について情報提供がありました。

その後、農業普及課が行った下呂市トマト部会員に対する障がい者雇用の意向調査結果を説明し、意見交換を行いました。

出席者からは、「農と福がもっとお互いを理解することが必要で、障がい者雇用を考えている農家を農と福が一緒に見学をしたり、作業体験をすることが大事。」などの意見があり、次へ繋がる有意義な会議となりました。

今後、農業普及課では、来年１月に実施される個人面談時に生産者から詳細な意向を聞き取り、農福連携のマッチングを支援していきます。（地域支援係）

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■トマト部会　反省会で樹勢管理を指導

【トマト栽培講習の様子】

12月16日、下呂温泉の望川館において、下呂市蔬菜出荷組合トマト部会（部会員53名）の事業反省会が開催されました。

本年は昨年と同様に高温が続く栽培環境となりましたが、出荷量は昨年を上回る過去最高の実績となりました。

反省会では、ＪＡ全農岐阜、市場から販売経過について、部会からは本年度の事業経過と飛騨トマト部会の次年度の方針についての報告がありました。

農業普及課からは、今年度、個別巡回指導時に測定した新規就農者の葉柄汁中硝酸イオン濃度について、高単収者の推移、傾向を説明し、樹勢管理の重要性と理想とする濃度の推移について指導を行いました。

出席者からは、「見た目では分からないトマトの樹勢をどのように管理していくのか。」などの質問があり、関心の高さが伺えました。

農業普及課では、次年度も硝酸イオン濃度に基づく肥培管理指導を継続し、新規就農者等の早期経営安定を支援していきます。（地域支援係）

■ほうれんそう部会　反省会で品種試験結果について情報提供

【反省会の様子】

12 月 13 日、ＪＡひだＡ－ＰＣにおいて、下呂市蔬菜出荷組合ほうれんそう部会（部会員 11 名）の反省会が開催されました。

今年の夏ほうれんそう（出荷期間：3 月 16 日～10 月 31 日）は、生産者数の減少や夏季に長く高温が続いた影響などから、出荷量が少なく、前年を大きく下回る結果となりました。

反省会では、ＪＡ全農岐阜から産地及び販売の取組みについての報告があり、続いて、ほうれんそう部会から事業・会計と来年度の活動計画について報告がありました。

農業普及課からは、昨年部会で試験をした冬ほうれんそう用の品種「ピンドン」について、各生産者から聞き取りした評価結果について報告を行いました。

部会長からは、「これまでの試験は種子を配って終わりだったが、今回は多くの方からフィードバックがもらえて良かった。」とのことでした。また、生産者から新たな有望品種の試験について提案がなされるなど、品種についての関心の高さが伺えました。

今後、農業普及課では、夏季高温時の遮光対策など、ほうれんそうの安定生産に向けた支援をしていきます。

（地域支援係）

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■きぬむすめ（水稲）　実証ほ検討会を開催

【実証ほ検討会の様子】

近年の地球温暖化の進展、とりわけ夏の高温により米の品質低下が懸念される中、農業普及課では、令和４年度から高温の影響が少なく、良食味が期待できる品種「きぬむすめ」の現地実証を行い、この地域に適した栽培体系の確立を進めています。

12 月 18 日には、下呂総合庁舎において、生産者や関係機関の担当者 11 名が参加し、実証ほの調査結果と今後の取組みについて検討をしました。

今年の実証では、「きぬむすめ」は高温の影響を受けにくく、品質や味が良いことが確認できた反面、単収が低く、安定した収量を確保できないなどの課題も浮き彫りになりました。

出席者からは、「予定していた追肥ができなかった。」、「今後は、近隣の法人経営体の意向も確認し、面積拡大を進めていきたい。」「この地域で生産された「きぬむすめ」の販売は慎重に行っていきたい。ここならではの特徴やストーリーが欲しい。」などの意見が出されました。

今後、農業普及課では、今年度の実証結果を踏まえ、栽培暦の見直しを行うとともに、次年度の実証計画の立案を進めていきます。

（地域支援係）